

81. 活動成果の学術的情報発信：「PLoS One」誌

(学外対応分)

実施時期又は期間

平成23年11月16日

対応部局及び人員

被ばく医療総合研究所，保健学研究科，医学研究科【教員】

実施の背景・目的

文部科学省から，平成23年3月11日に発生した東日本大震災に起因する福島第一原子力発電所事故に伴う住民の避難への支援依頼があり，3ヶ月間の弘前大学の派遣チームの被ばく量を測定評価した。震災対応に寄与することを目的として，これらの活動成果を広く発信した。

実施概要

様々な活動成果の学術的情報発信をすることは極めて重要であることから，3月15日から6月20日の期間弘前大学から派遣された13チームメンバーの全員の外部被ばくと内部被ばくを評価解析し，「PLoS One」誌に「福島県の避難所における支援活動に伴う個人被ばく線量」との題名の論文を発表，掲載された。

効果又は結果

最初のチームのメンバーが最も高い外部被ばく線量を示したが，ほとんどすべての被験者はGMサーベイメーターで13,000cpm以下の非汚染レベルであった。また，内部被ばくについてはホールボディカウンターで測定したが，スタッフ全員で検出限界以下のレベルを示した。

今後の課題

今回測定された外部被ばく線量の評価だけでは，住民の健康に対する影響を評価することはできない。特に事故直後の内部被ばくを含めた包括的な線量評価を行うとともに，長期間にわたって住民に対する追跡調査が必要である。

担当部局名

被ばく医療総合研究所



被ばく状況調査チーム